


ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.049 }
2022 3.18

特集 ONE TEAM プロジェクト

松本大学サタ・プロジェクト・まつもと / 学生プロジェクト / #つぶやき



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。

ごあいさつ

コロナ禍となり、約2年が経過しました。これまで「当たり前」に思っていたことが、いつの間に「当たり前」でなくなり、急激な変化を余儀なくされた生活の方が「当たり前」になってきました。暗い夜道の中を歩くが如く、誰しもが先の見通せない中で歩まざるを得ない時代といえるかもしれません。しかし、だからこそ、私たちは、地域の人たちとの手触りのある関わりを大事にしていきたい。そうした関わりから紡ぎだされる学びは、いつまでも心の中に残り続け、一人ひとりの人生を励まし続けるものとなるのではないか。そのような学びを「生きた学び」と呼ぶならば、そうした「学び」を創りだす挑戦こそ、地域とともに続けていけたらと考えます。



学校法人松本学園
松本大学

ワン チーム
ONE TEAM プロジェクト

概要

「ONE TEAMプロジェクト」は地域活動の導入として位置づけ、地域を知ることが目的に様々なテーマに取り組んでいます。地域の人々の想いや生き方を、体験と座学を交えながら学んでいます。



12月 いのちと平和を考える
 ～地域の平和について住民とともに考える～



和という時代が徐々に忘れ去られようとしている中で、地域づくり考房「ゆめ」では戦争と平和について考える機会を毎年設けながら地域活動に繋げています。今年は12月4日(土)に本学121教室で地域の平和について考える「いのちと平和を学ぶ」学習会を開催しました。

今回の活動では、地域の方々と学生が年代を越えて平和について語り合い交流することで、学生が知識の上でしか触れていない戦争を、より身近な問題として捉え平和を見つめ直すことを目的に行われました。当日は地域の方々と学生が約30名参加しました。

午前には、地元で紙芝居を通じて平和を伝える活動を続けている手塚英男さんを招き、国民学校時代の子どもの様子を紙芝居で見ることで当時の子どもたちの気持ちを知る手掛かりとしました。また午後は戦争時代の暮らしについて地域の方々と語り合うことで、住民の暮らしを知り、「銃後の守り」の実態を知ることができました。戦争という時代を生き抜いた地元信州の女性を主人公に描いた小説「やまなみの詩」を執筆された中野和朗元学長からは、小説を通して描こうとした平和への想いや学生が平和についてのどのように考え生きていくべきかを講演していただきました。また1月に知覧特攻平和会館を訪れた学生からも特攻兵士の実情と戦争とのかかわりについて詳細な発表がありました。菅谷昭学長からも平和活動の取り組みについて貴重な示唆をいただきました。参加した学生は、自分たちが戦争の実態を正しく次世代に伝えていくためにどのような姿勢で臨んでいくかを深く考える機会とすることができました。



学生の感想



今まで、当たり前の様に平穏な日常を送っていましたが、それがとても幸せであることを再確認し、また、若い世代だからこそ、戦争や平和について考えなければいけないと思いました。
 (短大1年 樽沼)

11月 食といのちを考える

「食」と「いのち」のかかわりを知ることは、地域資源としての「食」を大切にしながら生きることに繋がります。11月27日、高大連携教育の一貫として大学生が南安曇農業高校を会場にして「食といのちを考える」学習会を行いました。

まず参加した14名の学生は、自分が住む地域の「水」を持ち寄り飲み比べることで、水が「食」の原点にあり地域と水が深いかかわりを持っていることを学びました。また地域の資源を活用してビジネスを展開する「株式会社石井味噌」の石井康介社長や「株式会社かまくらや」の田中浩二社長、四賀村で農業の活性化に努める佐々木清夫さんの対談を聞くことで、これから



の地域の在り方を考えるとともに、地産地消がもたらすビジネスの可能性などを知ることができました。そのほかにも食肉加工の実習や家畜の飼育の様子など農業高校の様々な施設や教材を見学することができました。参加した学生は、いのちの源である「食」という地域資源を大切に扱うことが、これからの持続可能な社会に重要であるということを感じていました。



学生の感想



地域資源の有効活用、放棄された田んぼや畑の再利用、農業の雇用といった日本の課題と正面から取り組む熱い想いを聞ける貴重な時間でした。生産者さん、地域の人、加工を行う人とでお互いを信頼し合うからこそずっと続く地域資源を活かした農業ができるのだと思いました。斜面で日当たりが悪い畑、難しい畑をあえて自分たちの原点としてとらえる所がかっこいいと思いました。外国産の安い食材ばかり買うのではなく、地場産や国産、そこから作られたものを買って少しでも地産地消に貢献していきたいです。 (観光1年 長谷川)

12月 地域の福祉を学ぶ

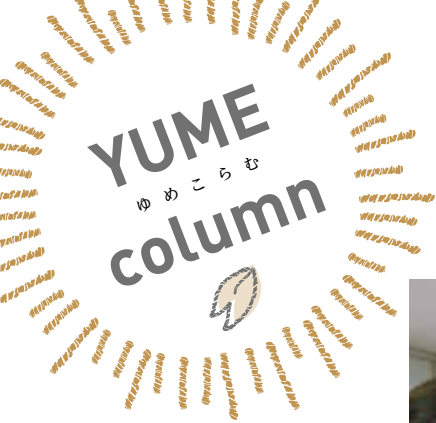
12月18日(土)、松本市四賀にお住まいの皆様が月に一度楽しみにしている地域サロンに、10名の学生がONE TEAMプロジェクト活動「福祉とくらし」を学ぶために参加させて頂きました。午前中に四賀地区の棚田で栽培した「もち米」をお赤飯にして、4地区のサロンに5名ずつで届けました。会場は、クリスマス前ということもあって、きらびやかな飾りがあり、テーブルには、ケーキやミカン、お漬物などが真心と一緒に置かれていて学生は大喜びでした。サロンは、ご高齢の皆様が中心で、昔話から現在の生活の様子、地域の人の温かさで盛り上がり、学生にとって、人生の大先輩から多くのことを学ぶ機会となりました。学生によっては、自分の進路について相談する学生もいて、大変和やかで楽しいひと時となりました。



学生の感想



普段こうやって地域の人と関わる機会はなくゆっくりとお話してきたのがすごく楽しかったです。住んでいる方のお話を聞いたことによってより四賀の理解が深めることが出来ました。赤飯のもち米作りも田植えとかから参加してみたいと思いました。また来年も来てねと言われたのがとても印象に残りました。もし来年も行く機会があれば行きたいと思いました。地域の方は普段どんな暮らしをしているのか、お孫さんがいるとか、出身地の話とか話しながら色々思い出してくると言い、すごく楽しそうにお話しして下さって嬉しかったです。 (観光3年 野本)



松本大学サタ・プロジェクト・まつもと

サタ・プロジェクト・まつもとは、クリスマスを自宅で過ごせない子どもたちへ本を届ける活動です。本を購入してくださる市民サタさん、協力を受け入れてくださる書店さんの想いを一緒に届けます。

今年度はサタ・プロジェクトの成り立ちを学ぶ勉強会から始め、理解を深めました。市民サタさんへ贈る認定証のしおり

は14種類ものデザインを学生が考え、とても好評でした。また、本学の生協も協力してくれたため教職員や学生も立ち寄りやすく、本を購入してくれた方々もいました。市民サタさんが思いを込めて購入した本は、学生が作成したかわいらしい装飾の箱に入れて子どもたちへ贈りました。

贈呈先の施設からは、「毎年子どもたちが楽しみにしている」、「大切に読ませていただきます」など声をかけていただき、心があたたかくなりました。



学生の感想



初めて携わり感じたことは、人と人との大きな繋がりでこの活動を創り上げることができる素晴らしさに気づけたこと。届く本を待つ下さる方々と本を届ける方々全員に共通してみられたのは、この活動が楽しみの1つとし、喜びを得ていたことだ。個々の思いが込められた優しさ、愛情が織りなされていることに私は深く感動し、実感させていただきました。（教育2年 田中）

松本BBS会

12月に、有明高原寮で2年振りのクリスマス会が行われました。例年であれば、少年たちとクリスマスケーキを食べながら談笑もしますが、コロナ禍で飲食はできません。それでも、一緒に過ごす時間を楽しいものにと、学生は珍しいテーブル



レクを考えたり、クリスマスカードの準備を進めてきたりしました。

クリスマス会に初めて参加するという学生も多かったのですが、レクを通して少年たちと話すきっかけにもなり、次第に緊張も解けていきました。互いに笑い声も聞こえ、明るい雰囲気の中で、楽しい時間を過ごすことができました。活動を通して、少年たちの更生のサポートが少しでもできていれば嬉しく思います。

学生の感想



準備は皆で意見を出しあい、メンバーとの交流を深めることにも繋がったと思います。クリスマスカードはクリスマス会の思い出の一つになるよう、先輩方と試行錯誤しながら作りました。当日は緊張していましたが、同世代の少年と話したりゲームをするのは想像以上に楽しく、貴重な時間を過ごすことができました。

（観光2年 猿田）

あるぶすタウン

小学生に職業を学んでもらいたい。大学生がプロデュースすることで教育と経営を学べたら……。企業の方との協力で地域社会を学びたい。そんな信念のもと、あるぶすタウンは綿密に計画されました。過去に経験した学生もいましたが、昨年できなかったこともありほとんど白紙の状態からのスタートでした。7名の学生は、毎週のように会議を繰り返し、練ってはシミュレーション、また戻る。プロジェクトがほぼ完成に近づいたときにコロナの第6波が襲ってきました。議事録とホワイトボードには虚しさ半分、達成感半分、しかし、学生はめげずにできることは何かという議題に奮闘していきました。今後のことは未定だが、来年こそその気持ちが全員に萎えていないように感じました。「学生の提案を聞いて、あるぶすタウンが楽しみになってきました」という意見を企業の方から聞きました。きっと来年こそは、夢がかなうことを祈って学生の成長にエールを送りたい。



学生の感想



あるぶすタウンの運営は皆初めてでしたが、毎週のミーティングを重ねてオリジナルの第6回企画を作っていくことができたと思います。私は少しずつ当日や運営のイメージが固まってくることにやりがいを感じていました。自分たちで1からイベントの構想を練り、準備を進めてきたことは良い経験になりました。

(総経3年 林)

ええじゃん栄村

1月9日に、栄村小滝集落の年間行事である「どうろく神」に参加しました。「どうろく神」は、「どんど焼き」や「三九郎」のことで、雪の中で火を燃やし、無病息災、五穀豊穡を祈願するお祭りです。昨年度はコロナウイルスの影響で参加できなかった



ので、2年ぶりの参加でした。

子どもたちとも交流でき、お賽銭を入れる雪像と一緒に作ったり、雪合戦をしたりと、学生も思いきり楽しんでいました。また、好きな言葉や目標などを書いた書き初めも、願いを込めて燃やしました。

1日を通して、学生も子どもたちも目を輝かせていたのが印象的でした。地域の伝統行事の大切さ、住民全員でつくりあげることの一体感も活動を通して学びました。

学生の感想



コロナ禍でも小滝の方々私たちが温かく迎えてくださりとてもありがたかったです。久しぶりに子どもたちとも交流することができて楽しかったし、他団体の方々とも交流することができて、充実した時間を過ごすことができました。また、小滝は住民同士のつながりを大切にしている、そのつながりの中に少しでもええじゃん栄村が入れたことがとても嬉しかったです。また参加したいです。

(ええじゃん栄村一同)

Sign ~障がいについて考える会~

1月17日(月)に「障がいについて考える会」を開催し、10名の学生が参加いたしました。当初は、松本市障害福祉課の方にお越しいただき、対面形式での開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの関係で学生のみリモートによる座談会方式での開催となりました。

座談会は終始和やかに進み、学生が今まで障がい者と関わりを持った経験、また障がい者に対する想いなど活発な意見交換や議論を交わしました。



今まで、障がい者と関わりを持った学生も多く意見交換の中でも、「障がい者としてではなく、一人の人間として尊重し接することが大切である」など、偏見をなくし思いやりを持った対応の重要性を語っていました。

今後も障がい者に寄り添い、他人の痛みを理解できる人間として成長して欲しいものと願っています。

学生の感想



昨年度開催できなかった座談会を今年度開催することができました。座談会を通して学生が障がい者に対してどのように感じているのか、どうしてそのように感じてしまうのか意見交換をおこない把握することができる良い機会になりました。この結果を活かせるように第2回開催や市役所の方のお話も改めて計画していきたいです。

(観光3年 下里)

学生プロジェクト

キッズホッケー

武沢

子どもと関わり、共に運動することの楽しさや面白さを感じてもらうことができました。メンバーとの連携を深めることもでき、コロナ禍の中でも充実した時間を過ごすことができました。



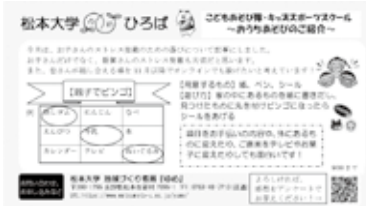
子どもあそび隊

山後

キッズスポーツスクール

野本

今年度子どもあそび隊とキッズスポーツスクールは、合同でイクジに記事を掲載するという活動をしてきました。コロナ禍でしたが毎月記事を掲載することができてよかったです。



「ゆめ」編集

真関

今年度は、今までと少し趣向を変えて、短期間で壁新聞を作成するという新しい試みを行いました。まだ改善点はありますが、新しい活動の流れを作れました。



ゆめの1年

「ゆめ」には13組の学生プロジェクトがあり、それぞれ個別の目的を持って地域連携活動に取り組む貢献しております。また、「ONE TEAM」プロジェクト活動にも積極的に参加してきました。2021年度も昨年度に続きコロナ禍に翻弄された1年でしたが、各プロジェクトの代表学生の皆さんより、それぞれの「ゆめ」に向けて熱い想いを寄せていただきました。

ONE TEAMプロジェクト年表

- 5月22日(土曜日)「地域ビジネスに活かす農業」
四賀の棚田でコメ作りからビジネスと江戸時代から続く主食に感謝する心を学ぶ。学生参加はできなかったが来年に向けて地域交流に期待したい。
- 6月19日(土曜日)「地域に生きる人々から学ぶ」
梶原さんご夫妻からは、四賀に来て野菜作りを通じて人々と交わった様子を聞き、四賀文化財保護協会長市川さんからは、会田宿の歴史を講演と散策で学んだ。
- 7月3日(土曜日)「地元野菜の魅力と人の繋がり」
都会から四賀地区に移り住む梶原さんからネギの植え替えで農業の苦労と楽しさを学び、その野菜を使って食堂を経営する「sabou しが」の田中さんから、移住の理由と人との交わり方を学ぶ。
- 7月17日(土曜日)「栄村小滝集落の魅力を探る」
長野県北部地震当時の状況やそこから住民が力を合わせて復興した道のりを地区の人々から聞き、一緒に自然豊かな小滝集落を散策することでこの魅力を学んだ。

ええじゃん栄村

花岡

1年間コロナの様子も見つつ、昨年度の反省を活かして、小滝へ行けるときには地域住民の方との交流を大切に、ええじゃん栄村らしく活動することができました。



すすはなプロジェクト

窪田

コロナ禍でも止まらず新たな挑戦をしてきました。SNSで地域の魅力発信、アンケートで地域の思いを知ること、そして『ゆめ』では初の他大学のボランティアとの交流を実現しています。



Sign

下里

メンバーが3人に増え今後の活動を考えるうえで幅が広がりました。Signの活動を学生に知ってもらえる機会を来年度は増やしていき、新1～3年生を中心にメンバーを集めたいです。



ひとこと報告会

松 本大学サンタ・プロジェクト・まつもと



今年度はオンラインで実施された全国のサンタ・プロジェクトの活動報告会に参加させていただき、刺激をもらい、さらにレベルアップした活動ができました。来年度も全力で頑張ります！



あ るぷすタウン



約1年かけて開催準備を進めてきました。感染症対策を考えつつ、子どもがいかに楽しく学べるのかを意識して企画を考えられました。様々な人にご協力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



oderDojo 松本 @松本大学



この1年間は昨年同様コロナに阻まれた年でしたが、一度でも学内体験会を開催できたり、興味を持ってくれる人を勧誘できたりしたことは成果だと思えます。ありがとうございました。



さいごに『ゆめ』のみんなへ

4年間あっという間、もう卒業って感じですね。最後に『ゆめ』のリーダーとして、皆さんにどんな言葉を贈るか考えました。その一言はずばり「自由に楽しめ！」です。私自身この言葉が一番合っていると思ひ、その言葉を皆さんに託します。「楽しむ」だけでなく、「自由に楽しむ」です。

この4年間社会が大きく変化し、コロナウイルスが最も大きな要因であると思ひます。しかし、これは逆に考えれば「発想の転換」が求められていると思ひます。今までの考え方を取っ払いましょ！発想を自由にそして楽しむ、これからの『ゆめ』には大切であると思ひました。

私も教員として社会に出ます。皆さんのご活躍を心から願っています。ガンバレ！「自由に楽しめ！」

地域づくり考房『ゆめ』代表 田村 瞬介

●9月25日(土曜日)「収穫から学ぶ農業ビジネス」

泥まみれの田んぼでの収穫は、人々の温かさや自然への感謝を感じるものであった。もち米を学生と地域で味わえることを夢見ての活動となった。

●11月27日(土曜日)「食といのちを考える」

かまくらや社長田中様、石井味噌社長石井様、四賀地区住民代表の佐々木様、南安曇農業の小池先生から、農業の未来と食といのちの関係をじっくり学び、水や加工品、生きているヤギからも生きる上で大切なものを学ぶ。

●12月4日(土曜日)「いのちと平和を考える」

紙芝居で戦時中の様子を手塚さんから学び、地域住民の佐々木さん、柳澤さん、丸山さんから学生に伝えたい経験談を聞き、最後に中野元学長より、ご自身著「やまなみの詩」から平和についての講演を頂いた。

●12月18日(土曜日)「地域の福祉を学ぶ」

四賀地区のサロンに学生が、折詰めした四賀の棚田産のお赤飯をお土産に、参加して、昔話や苦労話、今の楽しみなど、和気あいあいとひと時を過ごした。元気を届けながらも、地域の人々から学ぶことは多かった。

松 本BBS会



有明高原寮や研修会活動では、様々な興味関心を寄せ、積極的に活動できました。来年度以降も、少年だけではなく自分自身にも真剣に向き合いながら、お互いの人生を紡いでいきます。



いただきます!!



この1年間はコロナウイルスの影響によって思うように活動することが難しかったです。しかし、新しいメンバーも増え、来年度から活発に活動していきたいです。



茶 房「ひといき」



今年度はコロナの中でも対策などをして何とか地域の方と交流する1年でした。活動できる時間は少なくなりましたが、その中でも協力してくれた方々には感謝しかありません。



『#つぶやき』

#1年間のまとめ

地域の方が感じたことや学生の感想などをお届けします。



スターのつぶやき

喫茶「みすゞ屋」から引き継がれた
喫茶・会話・一芸の場所…茶房「ひといき」

来店の皆様からは「孫のような学生との話は楽しいね…今年はいつやるの」との声が聞こえます。コロナ禍で皆さんの気持ちをちょいと明るくしている感じです。

学生も視線を低くして話を聴いています、珈琲をそそいでいます、無茶振りした踊りにも反応します…皆楽しそうです。珈琲を飲みながら笑顔と優しさがかおる「ひといき」です。

(茶房「ひといき」 日詰 政男)



長い間寂しかった山合いの里に、キラキラ光る瞳の若人が大勢来てくださり、その昔賑やかだった往時を追憶することができました。

土にふれること、土を耕すことは心を耕すことに通ずるをひとつのテーマにして額に汗していただきました。

平和については、私たちの先輩が歩んできた確かな歴史とその上に立つ現在の姿を確認し真摯に取り組まれている姿に感動を覚えました。

私にとって、考房『ゆめ』の皆さんとご一緒させて頂けたことは新しい発見であり貴重な体験でした。これからもよろしくお願ひします。ありがとうございます。

(四賀地区住民 佐々木 清夫)



私たちは12年前の創業以来、地域の耕作放棄地を活用して農業法人をやって来ましたが、この先単なる生産活動だけで終わらないと感じています。地域を巻き込んで、地域のお役に立てる活動をビジネスとして取り組んでいきたい。農業はその「きっかけ」であり、その先に広がる新たな可能性をスタッフたちと紡いで、形にしていきたいと思っています。信州の自然・風土・人という地域資源をフル活用して、次は何ができるのか？ 考えるのは楽しいですね。

(農業生産法人株式会社「かまくらや」
代表取締役社長 田中 浩二)



いまの若者たちは、戦争を語り継ぐ第三世代です。

第一世代は75年前の戦争体験者。第二世代は、親の体験を語り継ぐ世代。それをさらに語り継ぐ第3世代が若者たちです。

体験と記憶を語り継がなければ、史実は忘れられます。75年前のアジア・太平洋戦争すら。

加害(侵略)・被害(原爆・大空襲)・抵抗(反戦を叫んだ国民)の歴史を踏まえ、戦争の真実を見極めましょう。

地域の人びとと共に、戦争を語り合い学び合う松大生にエールを送ります。(元中央図書館館長 手塚 英男)

新村地区の人々の声



コロナ禍になる前は「ふれあい健康教室」や「脳活マージャン」など福祉ひろば事業に参加し盛り上げてくれた。地域の方々と交流する姿は微笑ましく学生がいるだけで参加者は笑顔になる。最近は人数制限や事業の縮小などで触れ合う機会もすくなくなり寂しく感じている。

(福祉ひろばコーディネーター 奥 博美)



コロナ禍が続く中で思考力や行動力の萎縮感が気になる。消極的否定的な言葉はネガティブな思考や行動に表われる。逆に積極的肯定的な言葉はポジティブな思考や行動の栄養剤になるらしい。「ものは考えよう」とも「ケセラセラ…なるようになる」とも言う。制約の中でも余りある時間を無駄にせず、意欲的に新しい経験に挑戦し、何かを発見できないかと考えるが、「言うが易く行いは難し」とも言う。迷える高齢者である。

(地域づくり協議会 いきいき部会長 野口 義輝)



休みの「公民館寺子屋」に参加して小学生の子供たちと共に楽しむことができました。子供たちは二日間を勉強にレクリエーションにと時間を過ごしていました。私達「爺さん先生」と松本大学の「学生先生」で面倒を見ていると、子供たちは「学生先生」を憧れのまなざしで見ており「将来の自分もこうなりたい」と思っている様子が感じられました。

勉強やスポーツも、子どもたちはOB・OGに指導を受けると吸収が早いように思われます。そして、我々「爺さん先生」達はその成長を見守っていけたらと思います。子どもは宝です。

(あたらしの郷協議会 学びの部会長 山下 陽一)



学時間帯の北新・松本大学前駅ホームは、あふれんばかりの学生の光景が当たり前になっている。コロナの感染レベルが4・5になると閑散としたホームになり、若者のエネルギーが無い…寂しい…昔の駅を思い出す。大学グラウンド周辺は野球・サッカーの練習を見ながら愛犬散歩コース。野球の試合が行われている時はスコアボードに目を注ぎ、勝っていると微笑み「ヨシッ！」

(新村公民館館長 新村 芳男)

編集後記

12月の平和学習を終了した後、なぜか日露戦争の直後に漱石が書いた小説「三四郎」の中の言葉を思い出した。主人公三四郎が「これから日本も発展するでしょうね」と出会った男にいうと、男がすまして一言だけ、「滅びるね」といった。当時世論やメディアが戦勝ムードで歓喜していた時に、小説の中で冷やかに批判した漱石の視点に感心する。情報が簡単に入手できる社会だからこそ真偽を見抜く力を身につけて欲しい。地域活動を通して机上の知識に頼らない深い思考を学び取って欲しいと願う。(大野)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階

開館日時：月～金 10:00～18:00

TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216

E-mail: community@t.matsu.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>



CHIRIHOHININOGOSUYUME